

基本計画

序 章

1 目的

基本計画は、基本構想で示したいこいの森の将来像を実現するため、現状と課題及び基本理念を踏まえた整備の目標に基づき、基本構想期間の前期分となる 10 年間で実施する事業の方向性とその具体的な内容について、体系的に示すものです。

2 計画の構成

基本計画は、基本構想で示した以下の 5 つの整備目標から構成し、それぞれ具体的な内容について整理していきます。

「区域及びゾーニングの見直し」

「園路の回遊性向上」

「利用者ニーズに配慮した施設整備」

「野外レクリエーションに適した森林環境整備」

「公益性と収益性のバランスがとれた管理運営」

3 計画の期間

基本計画の期間は、基本構想の前期分となる 2019 年度から 2028 年度までの 10 年間とします。

第1章 区域及びゾーニングの見直し

1 基本方針

いこいの森は、開設当初からその区域を大きく変えることなく現在に至りますが、施設を効果的かつ効率的に利用していくため、これまでの利用状況や地理的条件の変化などを踏まえながら、施設用地として必要な範囲の見直しを進めていきます。

また、ゾーニングについては、調査報告書において設定したものを基本としつつ、区域の見直しの結果を踏まえた新たなゾーニングを設定するとともに、ゾーンの概要と整備の方向性について整理します。



道路で分断された区域



中核をなすキャンプゾーン

2 区域の見直し

(1) 道路による分断箇所の除外

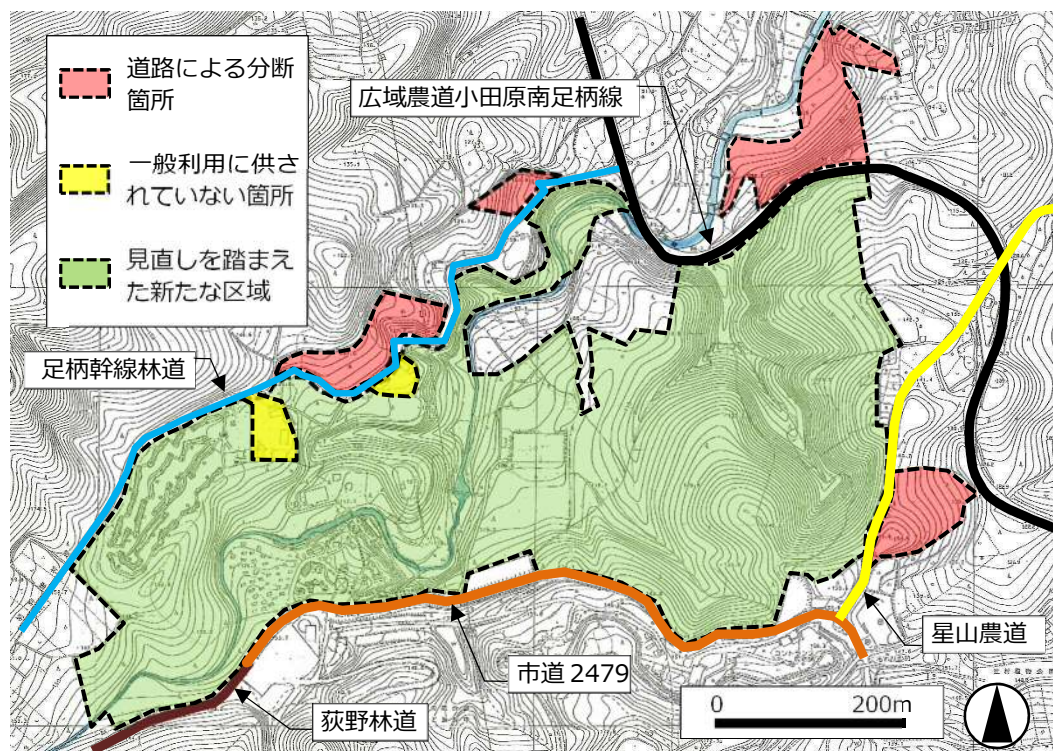
いこいの森の区域には、周辺道路の新設等によって分断された区域があります。これらの区域については、今後も利用の見込みがないことから、土地所有者と協議の上、契約更新時等の機会にあわせて区域から除外します。なお、除外する区域については、必要に応じて、森林整備等を実施します。

(2) 一般利用に供されていない箇所の除外

これまで、森林ターミナルゾーンとして位置付けられていた森林組合の貯木場、加工施設及び研修宿泊施設や民間の製材所などがある区域は、もとより一般利用に供されていないため、区域から除外します。

(3) 見直しを踏まえた新たな区域の設定

以上の見直しを踏まえた新たな区域は次のとおりです。
なお、新たな区域の面積は約 18ha です。



図Ⅲ-1 新たな区域の設定

3 新たなゾーニングの設定

(1) 新たなゾーニング

ゾーニングは、空間をテーマや用途別に区分するものであり、序論で述べたように、いこいの森のゾーニングについては、調査報告書において図Ⅲ-2のように設定されています。これを基本としつつ、以下の見直しを図った上で、図Ⅲ-3のとおり新たなゾーニングを設定します。

ア ゾーンの一体化

以前は、足柄美林ゾーンと自然観察ゾーンの間を送電線が設置されていたため、これを境として両ゾーンが分けられていましたが、現在は送電線が撤去され、両ゾーンを隔てる障害物は何もない状態となっています。

そこで、これら2つのゾーンを多様な森林の姿を観察、学習できるゾーンとして一体的に整備を進めていくことにより、自然探勝や観察活動などのさらなる活性化を推進します。

イ 新たなゾーンの設定

坊所川と溪畔林の優れた資源性に着目し、わんぱくらんどから合流する沢付近から坊所川下流部までとその兩岸の溪畔林を「せせらぎの森ゾーン」として新たに設定します。

ウ ゾーンの廃止

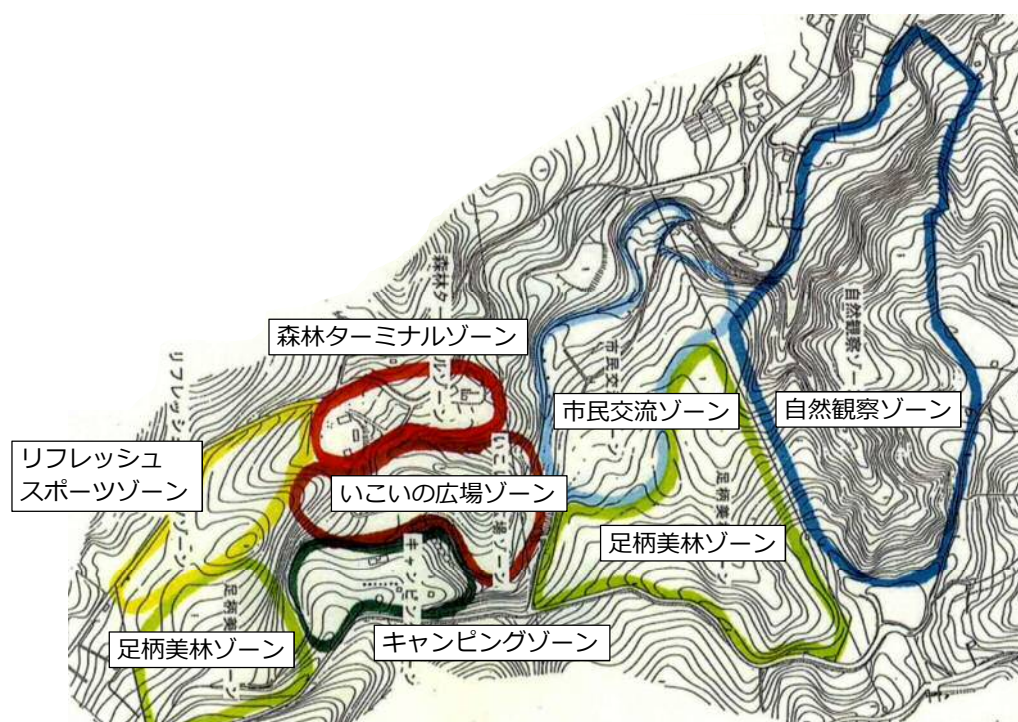
森林ターミナルゾーンは、一般利用に供されていないため、廃止します。

エ 名称等の変更

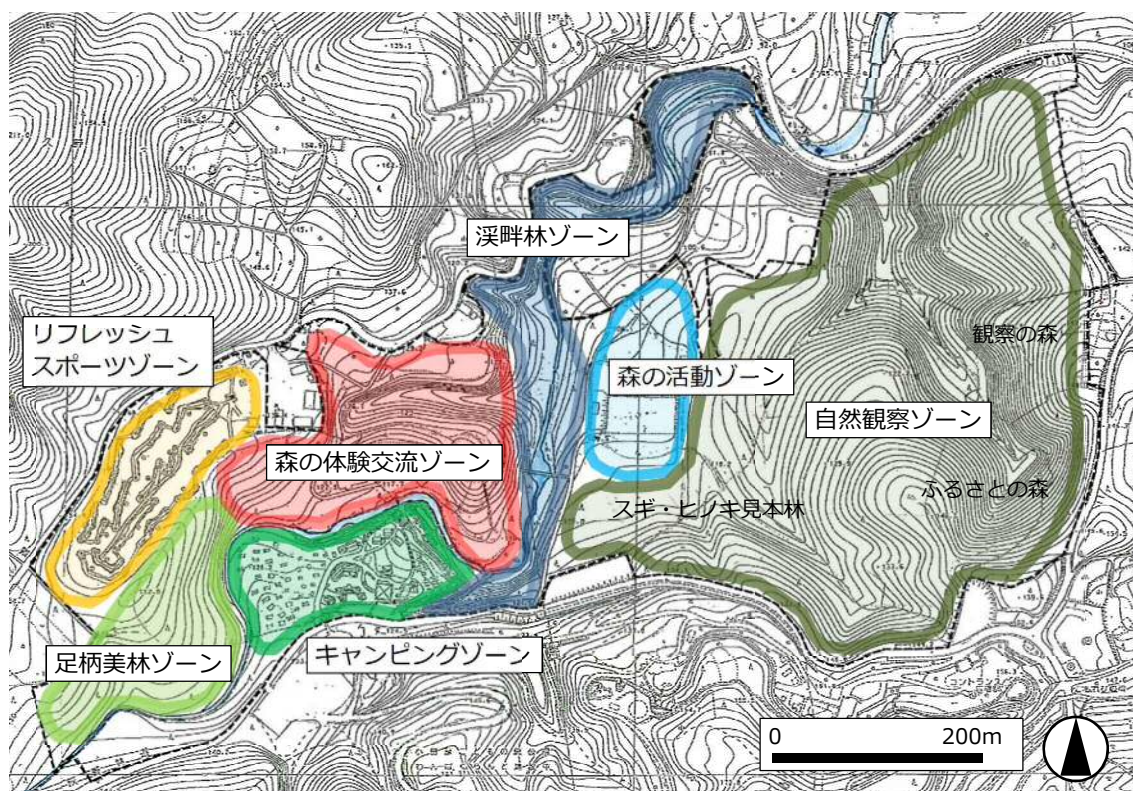
基本計画に基づき施設整備を進めていく上で、目指すべき利用の姿などをイメージしやすくするため、一部ゾーンの名称を変更するとともに、その範囲について下表のとおり整理します。

表Ⅲ-1 ゾーンの名義及び範囲の変更

旧名称	新名称	変更理由
いこいの 広場ゾーン	森の体験 交流ゾーン	当該ゾーンは、調査報告書の作成以降、施設利用者の要望を基に建設された「体験交流センターきつつき」を中心に、様々な体験や交流が楽しめる場所となっているため、利用形態に合わせた名称に変更するものです。 また、廃止する森林ターミナルゾーンの一部エリアを当該区域に取り込み、一体的な利用を推進していきます。
市民交流 ゾーン	森の活動 ゾーン	調査報告書では、いこいの森の区域外にある個人所有の農地などと連携して「市民農園」を展開する構想が検討されていましたが、現在まで具体的な動きは見られませんでした。 そこで、本計画では、この開けた空間を多様な活動が展開できる場所として、整備構想を見直すことから、名称を変更するものです。



図Ⅲ-2 調査報告書におけるゾーニング（再掲）



図Ⅲ-3 新たなゾーニング

(2) 各ゾーンの概要と整備の方向性

ア キャンピングゾーン

いこいの森の玄関口として管理棟が配置されているほか、キャンプ関連施設がコンパクトに整備された、いこいの森の中核をなすゾーン。近年、キャンプ活動などが団体利用から、小グループや家族利用が主流になってきているため、利用形態に合わせた施設配置を念頭に置きながら、バンガローや林間キャンプ場の改修等を推進していきます。

イ 森の体験交流ゾーン

体験交流センターでの木工体験や交流、あそびの広場での遊具遊びやキャンプファイヤーが楽しめるゾーン。森の中での自然体験や交流活動をさらに活性化できるように、広場の拡充やふれあいの丘の園路の改修等を推進していきます。

ウ リフレッシュスポーツゾーン

森林景観を楽しみながらバードゴルフで汗を流すことにより、心身ともにリフレッシュすることができるゾーン。森林内に 18 ホール整備されている施設は全国的にも珍しく、市内外から一定の利用もあるため、さらなる利用の活性化が図れるよう施設等の整備充実を図っていきます。

エ 足柄美林ゾーン

スギやヒノキで形成された人工林の中を散策できるゾーン。美しい森林景観が保たれるよう整備しながら、50 年後、100 年後を見据えた美林づくりを目指します。

オ せせらぎの森ゾーン

区域北側にあるせせらぎの森までの溪流と溪流沿いの溪畔林が望めるゾーン。川のせせらぎと森林が形成する雰囲気やゆっくりと楽しめる空間を提供するため、雑然としている林内環境や園路等の整備を推進していきます。

カ 森の活動ゾーン

クヌギの広場や林間運動広場で多様な活動を展開するゾーン。坊所川左岸からのアクセスを良くするため、園路整備等を推進するとともに、将来的には、林間運動広場の他用途への転換も視野に入れながら、魅力的な環境を整えていきます。

キ 自然観察ゾーン

坊所川右岸側に広がる多様な森林景観の中を散策することができるゾーン。散策コースの設定や案内表示の充実、園路の改修等を進めていくほか、歩いていて気持ちの良い環境を整えるため、計画的な森林整備を進めていきます。

また、森林の大切さなどを次世代に継承していくため、普及啓発活動のフィールドとしても活用を図っていきます。

第2章 園路の回遊性向上

1 基本方針

本章では、園路の回遊性向上について論じます。特に、園路及び広場の改修及び新設箇所について言及することとし、改修及び新設の内容自体については、次章で詳細に整理します。

いこいの森内には、管理道路や林間歩道などの園路が整備されていますが、長年未整備のまま放置されているものが多く見られるため、まずは、これらの園路の改修等を進めるとともに、各施設間を効率的に結び、散策を楽しむことができるように、新規園路や散策目標となる広場を設置し、回遊性の向上を図ります。

なお、本計画で示す園路及び広場の名称については、それぞれを区分するために整理したものであり、施設名称として正式に位置付ける際には、改めてふさわしい名称について検討を行うものとしします。



スギ・ヒノキ人工林内の園路



急勾配区間に整備された木階段

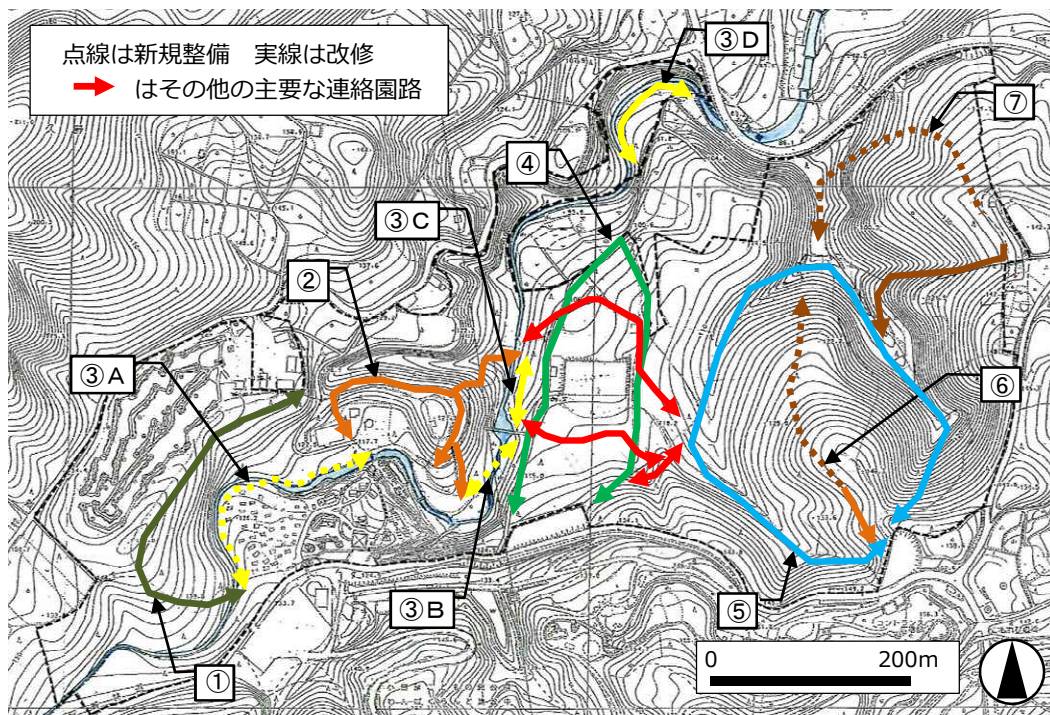
2 園路計画

(1) 園路の改修及び新設

図Ⅲ-4及び表Ⅲ-2のとおり、園路の改修と新設を実施していきます。

まずは、キャンプゾーン周辺に位置する足柄美林の小道や丘の小道など利用頻度が比較的高いと思われる既設の園路を優先的に改修することとし、次いで、東側の森林に広がる谷の小道や観察の小道などの順で整備を進めていきます。

また、せせらぎの小道や尾根の小道など、園路の新設については、周辺施設の整備等の進捗状況を見ながら、必要な時期を見定めることとしします。



注：○内番号は表Ⅲ-2の番号に対応

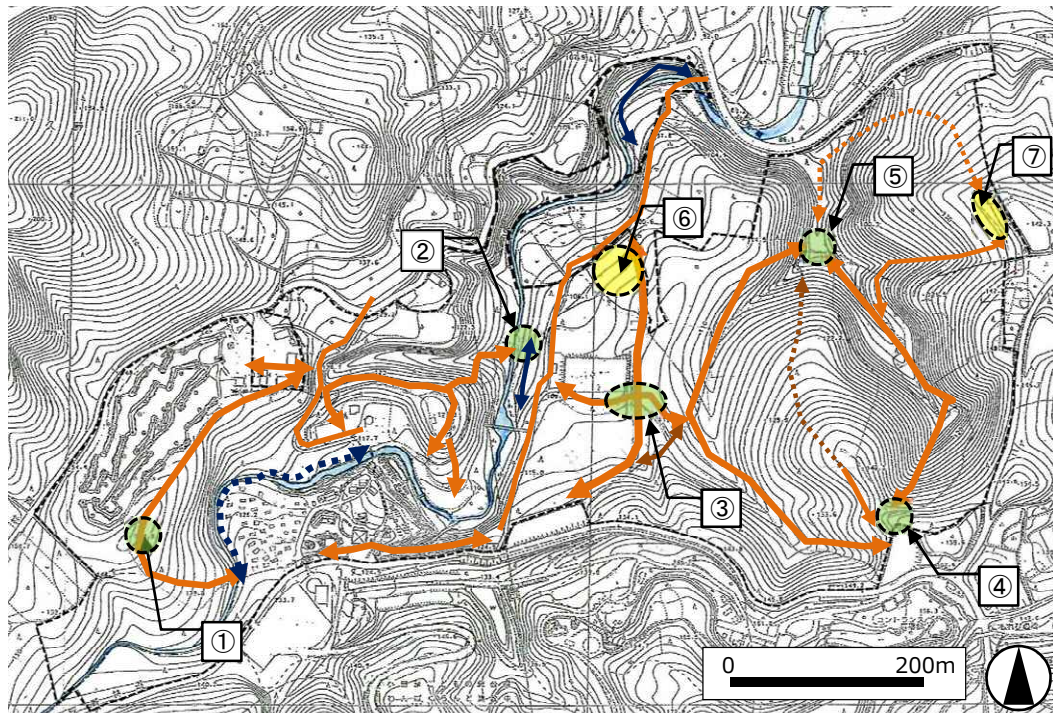
図Ⅲ-4 主な園路のルート案

表Ⅲ-2 主な園路の概要

番号	名称案	区分	概要
①	足柄美林の小道	改修	足柄美林ゾーン内の園路。人工林の景観美を楽しめます。
②	丘の小道	改修	広葉樹林の中を快適に歩くことのできる園路です。園路は複数本に分岐しています。
③	せせらぎの小道	新設 改修	坊所川沿いの園路。渓流と森林の景観美を楽しめます。坊所側沿いで歩行が可能な西（A）、中央2区間（B・C）、北（D）の4区間を設定します。
④	森林浴の小道	改修	わんぱくらんど第4駐車場からクヌギの広場に至る園路。改修してより快適に歩けるようにします。
⑤	谷の小道	改修	わんぱくらんど第3駐車場から伸びる尾根の両側に作られた谷沿いの園路。下流で合流しています。
⑥	尾根の小道	新設	わんぱくらんど第3駐車場から2つの谷の間にある尾根部を通る園路。新規に整備します。
⑦	観察の小道	新設 改修	東側奥にある観察の森の横を通る園路。やすらぎ広場から北側は新規に整備します。

(2) 散策目標地点の改修及び新設

図Ⅲ-5及び表Ⅲ-3のとおり、散策目標かつ休憩地点となる広場の改修と新設を実施します。新規広場の整備水準については、当初は、整備予定地の下草を刈り、周囲の樹木を伐倒し（広葉樹は可能な限り残す。）、野外卓と案内板を設置する程度の簡易なものにとどめ、さらなる整備については、利用者等の声をよく聴きながら、必要に応じて実施します。改修についても、現状について十分に把握した上で、上記と同様に整備を実施します。



注：○内番号は表Ⅲ-3の番号に対応 ● は目標地点となる既設の広場

図Ⅲ-5 散策目標地点の設置箇所

表Ⅲ-3 散策目標地点の概要

番号	名称案	区分	概要
①	ヒノキ広場	新設	足柄美林の小道の最標高地点にあるやや平らなスペースを新規に整備します。
②	せせらぎ広場	新設	飛び石付近右岸側。東西を結ぶ重要な地点。
③	十字路広場	新設	区域中央部の園路が十字に交差する地点。このように、明確な園路の交差部は少ない。
④	見晴らし広場	新設	わんぱくらんど第3駐車場から自然観察ゾーンに入る地点。眺望が良い。
⑤	出会いの広場	新設	東側の区域の2つの谷が出会う地点。
⑥	クヌギの広場	既設	林間運動広場の北側。クヌギが生育する明るい園地として管理されています。
⑦	やすらぎ広場	既設	最も西側に整備されている広場。東屋、ベンチなどが設置されています。

3 いこいの森散策コースの提案

前項の園路及び広場の整備を前提とした上で、いこいの森を散策するためのコースを提案します。出発地点はすべて管理棟前からとし、所用時間は女性や子どもがゆっくりと歩いた場合の2km/時前後の速度で試算しています。

なお、以下に提案するコースは全て回遊コースであり、両回り可能です。

(1) せせらぎコース（約 450m 所要時間 10 分）

管理棟から手軽に散策を楽しむことができる平坦なコースです。管理棟からキャンプ橋を経て、溪流沿いを歩きます。途中で左岸へ渡り、きつつき橋を渡って管理棟まで戻ります。

(2) ふれあいの丘コース（約 550m 所要時間 20 分）

せせらぎコースに次いで、管理棟から短時間に散策を楽しむことができるコースです。きつつき橋を渡り、体験交流センターきつつきの裏からふれあいの丘に登り、広葉樹が茂る快適な尾根道を歩き、桜橋を渡って管理棟まで戻ります。

(3) 足柄美林コース（約 700m 所要時間約 25 分）

いこいの森の西側に広がるスギ、ヒノキの人工林内を歩くコースです。樹高 30m 近くのスギ、ヒノキが林立し、シンプルながらダイナミックな森林景観が展開します。最後は森の体験交流ゾーンを経由して、管理棟まで戻ります。

(4) クヌギの広場・森林浴コース（約 1,000m 所要時間 35 分）

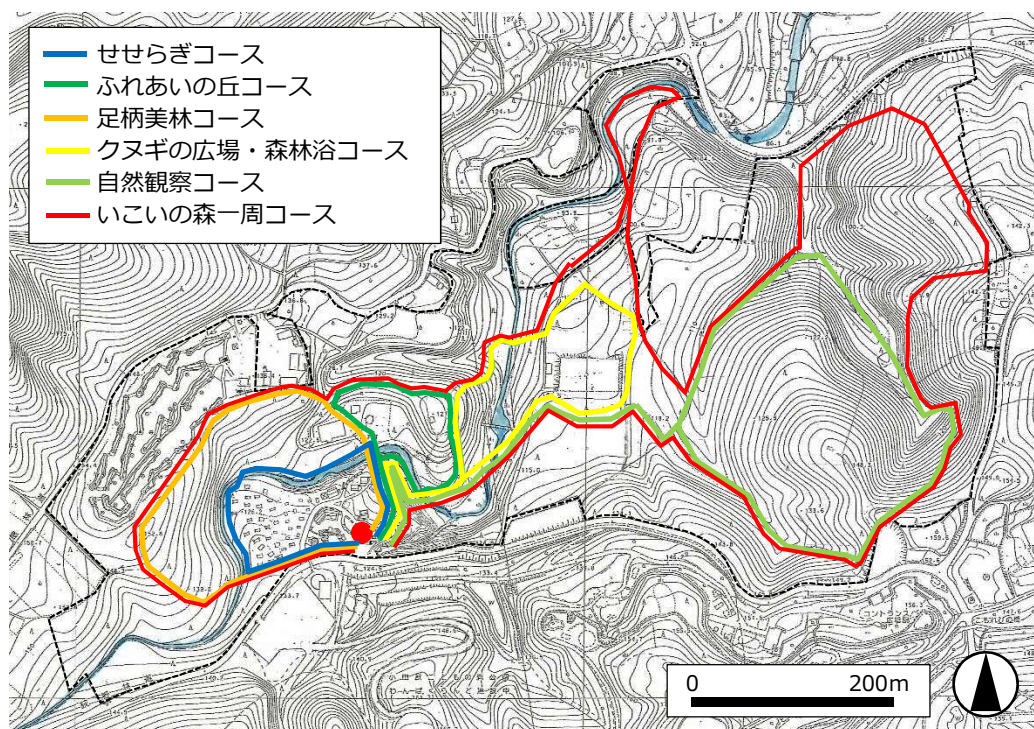
いこいの森の東側区域の利用拠点となる森の活動ゾーンを歩くコースです。ふれあいの丘を経由して、クヌギの広場へ行き、林間運動広場の東側を回って、いこいの森ダム上流部から桜橋に戻ります。

(5) 自然観察コース（約 1,650m 所要時間約 50 分）

管理棟からさらに遠方を散策するコースです。いこいの森ダム上流部で川を渡り、林間運動広場南側の園路を歩いて自然観察ゾーンに入り、谷の小道を 1 周して戻ります。

(6) いこいの森一周コース（約 3,000m 所要時間 90 分）

足柄美林コースと自然観察コースを組み合わせ、いこいの森を 1 周するコースが楽しめます。



図Ⅲ-6 いこいの森散策コース案